No.33

古高取通信

令和３年４月

私たちは、活動の四本柱を基に、まちづくりに貢献することを目指します。

1．活動の拠点を創る
2．古高取の知識を深める
3．古高取の魅力を伝える
4．次世代へつなげる

古高取を伝える会会報

目次

活動の記録　・・・・・・・・・2
なんでも掲示板　・・・・・・・・2
古高取紹介　・・・・・・・・・6

コロナ禍に思うこと

人間のおごりに警報を鳴らすかのようにコロナが忍者のように忍び寄り、いつの間にか人間界を蝕んできた。

私達人間は、楽をしたく便利を追求しすぎ傲慢になってしまったのではなかろうか。

この状況に反省を促すコロナのような気がしてならない。

今や人間界は、いろんな知恵を出し合い感染予防に必死だ。

この一年半余り、すっかり生活スタイルが変わり、今やマスク生活、手洗い、うがい消毒と毎日のルーティンだ。

自粛生活の中では、いろんな事にじっくり向き合うようになり、新しい発見が多くあったのではなかろうか。

しかし、未だにコロナの終息は五里霧中。

でもきっと長いトンネルを抜け出す日が来ると信じ粛々と困難を乗り越えていこうと思う。

早く世界に春が来ますように!!

永富セツ子

活動の記録

●焼物教室（焼物部会）

〈令和二年六月～令和三年一月〉
場所：直方市内の小学校
および鞍手幼稚園

コロナ禍で諸行事が中止になる中、小学校11校（５３４名）の子ども達、鞍手幼稚園にマイ茶碗作りを体験してもらうことができ、本当にうれしく思いました。

いつもの年には感じられない子ども達の私達に届く眼差しに励まされ、指導は密にならなければいけない作業にもかかわらず、学校側、子ども達の協力で終えたことに感謝しています。

ずっと楽しみにこの時間を待っていたと感想を言ってくれました。愛おしくなりました。

三学期のお茶会は全部中止になりました。

令和３年、コロナがどのように終息するか分かりませんが、陶芸→お茶会とつなげていけることを念じて本年度の活動を発足します。

スタッフの皆さん、よろしくお願いいたします。

なお、商店街で行われます「高取焼大茶会」は、秋の県民文化祭の頃と聞いておりますが、未定です。

お茶会に使用するマイ茶碗作りを一般募集して、令和元年秋から令和２年２月に実施しました。

令和２年４月の大茶会が中止になりましたので、この秋は何とか実施されることを念じています。

またホップ・ステップ・キャンプも希望者が多いので募集人数を増やす予定にされていましたが行うことができず中止になりました。

実施は夏休みですが、今のところ未定です。

末松登志子

●高取焼基礎研修講座（学習部会）

〈令和二年十月～令和三年一月〉
場所：えみくる
（直方市中央公民館横）

令和二年度は『喫茶と人物』の演題で三回の講座を実施した。

「第一回」
〈令和二年十月十七日（土）
十時三十分～十二時〉
場所：えみくる
テーマ：「喫茶のはじまり」
講師：副島邦弘

「第二回」
〈令和二年十一月二十一日（土）
十時三十分～十二時〉
場所：えみくる
テーマ：「草創期の茶の湯」
講師：副島邦弘

「第三回」
〈令和三年一月十六日（土）
十時三十分～十二時〉
場所：えみくる
テーマ：「茶の湯の成立」
講師：副島邦弘

本年度の研修講座は、陶工中心の話しでまとめてみます。

副島邦弘

なんでも掲示板

●金剛山もととり保全協議会

（「あじさい園」）
〈令和三年四月～〉
場所：金剛山もととり広場

二年続くコロナ禍の中でも、里山の自然は、梅、桜、チューリップ、新緑の季節と何も変わることなく移っていきます。

あじさいも緑の葉がいっぱい芽

ぶき、早いものは小さな花芽を付けているようです。

本年は少し早い花の時期を迎えて、この会報を届ける頃には咲き始めているかも知れません。

さて、里山の令和三年の総会は4月10日(土)に屋外にて実施しました。本年より組織を再確認し、里山のあじさい園で自然にふれあい、楽しめる場所にしたいと取り組んでいきます。

チューリップ植、あじさいポット植え替え、あじさい園の草取り、「あさぎまだら」の飛来が楽しめる。ふじばかまの手入れ、あじさい後の枝切り(昨年7月23日～25日)と古高取を伝える会のメンバーにも声をかけて手伝っていただきました。

あじさいは、間違いなく咲いてくれます。

鑑賞会は、コロナのルールをしっかり守っていただき自由に見ていただくことにしています。

お手伝いの方もよろしくお願いいたします。

末松登志子

コロナ禍の中で

倉田 豊子

ほとんどが自粛生活。でも楽しいことがありました。

コロナ第二波がおさまった頃、11月小代焼ふもと窯の井上泰秋作陶展に行きました。展示作品の中に目を引く花瓶がありました。

轆轤でもなく手びねりでもなく、それは正方形と正三角形の型の組み合わせで出来ていました。

とても新鮮でした。心に残り陶芸仲間とチャレンジしました。

形を思い出しながら、厚紙で模型を作りました。それをもとに切ったタタラを貼り合わせて、やっと花瓶の形になりました。この過程がとても楽しく、長さを変えて2個作りました。

陶芸教室の先生の手を借りて花瓶は素焼きまで出来上がっています。

花瓶づくりにワクワクして集中できた時間があったことでコロナ禍気分をやり過ごし、そして今、春を迎えることが出来ました。もととりあじさい園で子ヤギを見たり、草取りをしたり、里山の空気を力一杯吸って元気を維持しています。

この時期の里山散歩は特におすすめです。

不思議なご縁

柴田 ムツ子

小代焼き窯元の井上泰秋先生から、個展のお知らせがあり、コロナ禍とはいえ、細心の注意を払っての熊本へ。

しっとりとした、穏やかな、堂々とした存在感のある作品に魅了させられました。

井上先生の個展の話は、これでおしまいではないのですよ。

10数年前、エジプト旅行に参加した際に、荒尾市在住のＩさん夫婦と何となくウマが合い、旅行後も電話で近況報告をしたり、年賀状のやり取りが10数年続いていました。しかしながら、Ｉさんからの年賀状が今年は届きませんでした。どうしたのかなと案じていたところ、Ｉさんから電話があり、コロナ禍で、年賀状を出すこと控えていたとのこと。世間話がすすむ中、昨年の井上先生の個展の話をすると、なんとＩさんの隣組とのこと。

毎朝ウオーキングで、お互いの家の前を通り過ぎ、挨拶をしている仲間だとの事。気さくなお人柄で、気持ちよいお付き合いが続いているようです。

作陶されているときの、先生の顔は、見たことはないけれど、道であったりしたときのお顔は、いつも優しく微笑んでおられるとのこと。

先生の優しさが、作品に滲みこんでいるように思います。

Ｉさんは、自宅で茶道教室をされておられるので、井上先生の抹茶碗も所有されているとのこと。また、毎年2月末の土曜日、日曜日は窯出しのお手伝いをしたり、来訪者にぜんざいをふるまっているので、ぜひ来てねとお誘いがありました。行ければいいなと思っていましたが、残念ながら今年は失礼しましたが、来年は行きたいものです。

不思議なご縁に只々、ありがたさをかみしめている日々です。

直方歴史民俗資料館の候補地の概要を紹介

玉井 昭次

産業技術総合研究所九州センター直方サイトの経緯を見ると、筑豊石炭鉱業組合が石炭坑爆発試験所を大正14年（１９２５）に筑豊鉱山学校敷地内に新築する。

その後、筑豊鉱山学校が寄付を受け、昭和28年（１９５３）に通商産業省へ移り、産業技術総合研究所九州センター直方サイトが管理する。

平成25年（２０１３）に土地と建物は国庫納入され現在に至る。

土地面積は２２，９０７㎡（約６，９３１坪）、建物は庁舎の外に３つの建物があり、現在の庁舎①は昭和54年（１９７９）の建物で、面積は１階と２階を合わせて、約１，７０８㎡ある。

直方サイト境界概略図

近くには直方市の公園もあり、立地として最適ではないかと考えている。

現地への侵入道路は、筑豊高校の敷地内にあり、民間での活用が出来ないため放置された状態にある。

山田窯・白旗窯跡へ

末松 登志子

古高取を伝える会に関わって12年目にやっと念願の窯跡見学に行きました。

会発足からずっと正会員の岐部豊助氏（93歳）と山田窯と白旗窯跡に行ってみたいと話をしていて、お孫さんが連れて行ってくれるので是非にとお誘いを受け、会長、永富さんに声をかけて昨年秋10月に行ってきました。

好奇心を持ち続けられている岐部さんの娘さんの嫁ぎ先が現在の内ヶ磯の下のダムの所ですが、上のダムの話しが持ち上がった当時は窯跡付近に家があり、後には小石原の高取静山さんの元で陶工として働いておられた親戚の方があったと聞いています。

【コース】

山田窯・白旗窯跡→宅間窯跡→内ヶ磯窯跡

山田窯跡は、こんもりとした木々の中高台にそれらしい足跡が残され、綺麗に整備されていました。

高取八仙氏建立の記念の碑がありました。

この辺りは、後には炭坑があったところのようです。

八蔵父子が忠之の勘気にふれ（朝鮮に帰国を申し入れ）山田窯に蟄居させられ開窯（１６２４年）内ヶ磯から山田まで、野を越え山を越え４００年前どの様にこの地にたどり着いたのかとの思いを巡らせ熱いものがありました。何で山田だったんだろうかと？

この地で僅か６年、蟄居がとかれ（１６３０年）白旗開窯（この地で八蔵没）白旗を開窯して八蔵父子は小堀遠州の元に指導を受けに行っています。

八蔵の作風が白旗から変化したと言われています。

その時代の需要の変化でしょうか（今でいう流行）伝える会で白旗窯については（２０１９年）に飯塚の島田先生に勉強会にて資料をいただいています。ウロウロしたのですが窯跡記念碑を見つけることが出来ず帰って来ました。

宅間窯跡は個人所有を直方市がもらい受けフェンスが張られ少しだけ整備されていました。

「古高取を伝える会」が発足の次の年、二年続けて内ヶ磯ダム付近でダゴ汁、いもの天ぷらなどを振る舞い多くの人達が集まった頃のことを再び思い出しました。

今一度、初心にかえり窯跡を巡り「古高取を伝える会」の、会そのものの今後を考える時期が来ている様な気もします。高取焼は流転の窯と言われながらも小石原鼓の八山窯、八仙窯、福岡市高取の味楽窯と４００年以上もの歴史を背負って若い方にバトンが受け継がれています。

大きな夢、小さな夢でもいい、目的を持って見果てぬ夢を見続け、夢を語って共有すれば必ず次の世代に受け継がれると信じています。

死刑囚と向き合い続けた直方市の寺の住職がいた

木下 良弘

「教誨師（きょうかいし）」と聞いて、明確にイメージできる人はどのくらいいるでしょうか。教誨師は、仏教や神道、キリスト教などの宗教を通じて、受刑者や死刑囚の心情の安定を図り、自らの罪に向き合うよう促します。昨年1月現在、全国の刑務所や拘置所などで１８２０人が教誨師としてボランティアで活動しています。３年ほど前、大杉漣さんの主演で映画『教誨師』が上映されたことを記憶している人がいるかもしれません。

直方市山部の西徳寺で先々代の住職を務めた篠田龍雄さん（１８９６～１９７８）は、長年にわたり東京拘置所で幾人もの死刑囚と面会し、教誨師としての活動を続けました。篠田さんの極めて精力的な活動は、３年前に文庫化もされた堀川惠子著『教誨師』（講談社）で知ることができます。

堀川さんの著書や篠田さん自身の著作によると、篠田さんは10代で母親と死別し、20～30代には「不治の病」とされた肺結核での闘病生活を余儀なくされました。日中戦争から太平洋戦争に至る時期に、自らは病気を理由に徴兵されずに済んだものの多くの友人や知人が戦地で命を落としました。さらには、40代での娘や妻との死別も重なり、「いのち」の問題について考えなければならない境遇に追い込まれました。そのような中で「今、生かされている自分がすべきこと出来ることはなにか、誰もが嫌ってやりたがらない仕事はないか」を探し求めました。

そして、40代後半には、福岡拘置所での死刑囚の教誨の相談を受け、死刑の執行にも立ち会いました。さらに、50代の初めには直方と東京を毎月往復する生活が始まります。毎月5日に直方から列車で上京、翌月の1日に直方に戻る、という生活が83歳で亡くなるまで続きました。「日本で最初に、最も長距離の定期を作った男」というエピソードが残されています。直方での寺や幼稚園の行事は毎月5日間に集中して済まし、東京では、東京拘置所の教誨師を務めたほか、仏教の学校で若者に教え、寺や病院などで連日のように法座を開くなど超多忙な日々を送りました。

篠田さんは、死刑囚と話し合っているときの心境について、死刑囚に蟠踞（ばんきょ）している妄念妄想を吐き出させ、腹の中を空にして「死刑囚達に、空間の悦びをあたえると云うことを根本とせなくては…」と記しています。ただ、人間や動物だけでなく庭木の「いのち」まで大事にしたという篠田さんにとって、いつ訪れるか分からない執行の日を待つ死刑囚と面会、対話を続ける教誨師としての精神的な負担や葛藤はどうだったのでしょうか。

映画『教誨師』では、大杉漣さんが演じる牧師がさまざまな死刑囚と向き合う中で、何度も戸惑い苦悩するシーンがあります。また、堀川さんの本に登場する、全国教誨師連盟理事長を務めた東京の寺の住職は、長年の精神的な負担から酒に頼ってアルコール依存症になったことを打ち明けています。さらには、宗教家として普段は命の尊さを説いているのに、死刑執行の一端を担うことについてジレンマを感じる教誨師は少なくないようです。仏教界でも「死刑執行が宗派の教義に反する」との見解を発表している宗派があります。

死刑制度については、賛否両論を含めていろいろな意見がありますが、日本は先進国では数少なくなった死刑存置国です。２００９（平成21）年からは裁判員制度による公判が行われ、最近は裁判員裁判によって相次いで死刑判決も言い渡されています。つまり、市民が裁判員という形で死刑に直接関わる時代が来たということです。

こういう時代だからこそ、篠田さんが教誨師として歩んだ道をあらためて振り返る意義は大きいのではないでしょうか。

古高取紹介

内ヶ磯窯出土の鉄絵について

副島 邦弘

新型コロナウイルス騒動で取り紛れていた。「鉄絵について」令和元年8月に発行されたNo．30に続くもので、今回、その約束を果たしたい。

鉄絵とは、酸化鉄を多く含む鉄砂が黒色または褐色に焼成する。李朝の壺は鉄砂で絵付けされたものが多い。と、『陶磁用語辞典』に記述されている。

詳細には、高火度焼成の釉下彩の一つで、含鉄土石を顔料として釉下に黒褐色の図や文様を表したもので、別名銹(さび)絵(え)ともいう。

鉄絵を施す素地は、磁器や陶器で、陶器の場合は素焼きのものと白化粧を施したものなど様々である。いずれも鉄絵具で施文した後、青磁釉や無色透明釉を施釉し、高温で焼き上げる。鉄絵に使われている含鉄土石には、鬼板土・水打ち・黄土・黒浜・ベンガラなどがあり、鉄分の含有量や性質の違いから発色に微妙な差が現れる。鉄砂技法の始まりは非常に古く、隣国の中国では三世紀ごろに浙江省北部で作られた原始青磁で所謂古越磁の壺にすでに鉄絵が用いられていることが発掘調査によって明確化された。

この技術は、中国の北宋時代に経由されて、朝鮮半島へ、高麗の中央集権的な貴族政治体制が確立したとき、この鉄砂技術が伝波していくのが十一世紀後半で、北宋との活発な交流によって、広東省諸窯で焼かれていた鉄砂技法が伝わっていく、青磁・鉄絵などが高麗陶磁にも見られるようになっていく。李氏朝鮮を経て、これが我が国に伝わってくるのが十六世紀末で、所謂”やきもの戦争（文禄・慶長の役）“以前の天正年間には美濃が独自に朝鮮半島の鉄砂技法をヒントに始めたもので、他方唐津では鉄砂を鉄絵具による下絵付を装飾法とする「やきもの」が生まれている。唐津の絵唐津、美濃の絵志野や絵織部・絵瀬戸となる。高取にも絵高取と言える。

鉄絵三足鉢（県教蔵）

高取焼では、鉄絵はⅡ期の内ヶ磯窯の段階から入っていることが、直方市教育委員会の発掘調査で実証されている(註)。それも器形が推定されるものは少ない。それは陶片が細片であったためである。

今回は、原因者負担での福岡県教育委員会の調査の分から求めてみた。鉄絵の製品には、器形が推定されるものが多くなってきている。盆・高杯・小形皿・ぐい呑・茶碗・鉢・結文体鉢等が見られる。調査報告書では七十一点を数える。

写真は鉄絵の三足鉢で完形に近いものである。姿見は半球形の盆状の器で、三方から強く変形を加えた形態をなすもので、見込は鉄絵により三本の矢を描き、明灰色に発色する。長石釉を全体に掛けたもの。脚は粘土紐をU字形にしたものを三個貼り付けており、畳付は露胎である。口径は16～18ｃｍ、器高5．0～5．6ｃｍ、足0．6～1．0ｃｍで、工房跡C・D区の包含層より出土している。

見込の三本の矢について分析してみると、器として盆状のもので、食物を盛り付けるもので、向付の役割を果たす。見込に鉄絵で描かれている三本の矢の割付について見てみたい。写真の左上に二本の矢、下に一本の矢を描いて、矢羽を器の中心に向けている。器は三方に凹を付けている二方には絵を入れている。矢羽には羽中の節が描かれていない、すなわち、矢羽の中央に箆(の)を入れることが欠落している。矢のことが知識として、入っていない。素人が描いたものと思われる。また絵画専門の職人ではなく、下手で、武器としての矢について、扱ったことが無いものであると考えた方が妥当である。陶工が描いたものかと推定される。他の製品も同様である。

結論的には、矢ではなく木札となっている。これは陶工の誰かが描いたものである。

註　永満寺宅間窯跡の発掘調査からは、遺構からは鉄絵が描かれたものは出土していないが、表土の表採から唐津系のもので水指の陶片が二片見られる。

中泉小学校の六年生から、子供焼物教室の感想文をいただきましたので、少しだけ紹介させていただきます。順不同

古高取を伝えるみなさまへ

先日は、古高取焼をおしえに来てくださって、ありがとうございました。初めてすることで、中々難しかったですがみなさんが分かりやすく、ていねいにおしえてくださったので、とても楽しくできました。ありがとうございました。中泉小学校 奈木野結花

中泉小学校　6年1組　　奈木野 結花

古高取を伝える会のみなさまへ

先日は高取焼きの作り方を教えていただきありがとうございました。この学習を通して歴史を感じました。なぜかというとDVDを見たときに江戸時代のときから高取焼きがあるとしったのでそのような歴史のある高取焼きを作れてとてもうれしかったです。中泉小大村悠月

中泉小学校　6年1組　　大村 悠月

古高取を伝える会のみなさまへ

先日は、高取焼のつくり方を教えてくださってありがとうございました。ていねいに教えてくださったのでとてもわかりやすかったです。実際につくってみて、意外と難しかったけど、とても楽しかったです。

中泉小　森　菜緒

中泉小学校　6年1組　　森 菜緒

次頁につづく

前頁のつづきで、中泉小学校六年生の感想文を紹介させていただきます。

古高取を伝える会のみなさまへ

先日は、古高取を教えて下さってありがとうございました。古高取を作るのは初めてで、とてもいい体験が出来たと思いました。古高取には、すごく昔につくられ、それを受けついでほしいという思いが心に残りました。また作るきかいがあったら作りたいです。

直方市立中泉小学校
6年1組 大和 杏

中泉小学校　6年1組　　大和 杏

福地小学校の六年生から、子供焼物教室の感想文をいただきましたので、少しだけ紹介させていただきます。順不同

出来事日記　パート6

十一月　二十四日　火曜日

題　古高取を伝える会のみなさまへ

名前　盛永優依

今回は、貴重な体験をありがとうございました。私は陶芸をしたのは二回目だったけど、前回より上手にできたと思います。私が上手につくれたのはみなさまが優しくわかりやすく教えてくださったからです。みなさんがいたから、前回よりも上手にできたと思います。そしてこの地域のことを知れて嬉しかったです。古高取は四百年も前につくられたことはとてもすごいことだと思いました。八さんが色々な所でかまをひらき、登り焼きなどをしたから今の技術にもつながっていったんだと思いました。今年は新型コロナウイルスによって多くの学校行事が延長中止になって茶碗づくりもできないとゆわれてきました。でもこうやってみなさんもいっしょに茶碗をつくり、高取の歴史を知れてとっても楽しかったし、嬉しかったです。コロナウイルスのせいで小学校生活最後の一年が短くなり、友達と話すのも少しきょりをとったりして、面白くなかったです。でも、みなさんといっしょにできたことで、私はまた楽しい学校生活を取り戻せました。今週はクラブ活動でシャトルラン、生け花教室などで行事が盛りだくさんで目がしいくらいです。六年生になってから五年生のめざうを見たり、責任を持って行動したりするようになって「しっかりしよう」と心の底から思いました。昔の事を知り、次は伝える側になりたいと思いました。きょうや大きさも頑張ったけどやっぱり本物みたいに上手にはならなかったけど自分だけの世界に一つだけの茶碗をつくれました。今回つくったこの茶碗でお茶を飲む日がとっても楽しみです。将来どこに住むかわからないけどこの古高取は色々な人に伝えたいです。この体験で私が感心したことはすごいが大きいです。昔から続いていることを今もずっとのこっていることそしてそれを伝えようとする人が多いこと。私は将来の夢だとハッキリ言えるものはないけど一つ言えるのは、私は地元のすごいことを多くの人々に伝えます。本当にありがとうございました。

福地小学校　6年1組　　盛永 優依

次頁につづく

出来事日記　パート6

題　陶芸教室　　名前　吉村里響　　11月25日　水曜日

昨日は、ぼくたちのためにわざわざ福地小学校までおこしいただきありがとうございました。自分は今回、初めて陶芸をやりました。陶芸の歴史を知って少し興味を持ち実際にやりもっと興味をもちました。初めてだったので何も分からなかったけどみなさん方が教えていただき少し上達しました。こうだいを作るとこが難しかったです。ちゃわんをつくるのも形がぐちゃぐちゃになってしまったり厚さが異なったりしました。だけど最終的にはいい形になって良かったです。へらで模様を書くのも能せいが難しくすごく変な形になってしまいました。自分だけの模様をつけれたので楽しかったです。自分は初体験だったけど陶芸の良さもしれたし歴史も知れて良かったです。自分にとってい経験になりました。またやれるきかいがあったらやったりしていきたいです。そしてこれからみなさんがぼくらに教え伝えてくださったようにぼくたちもこれからの世代にも伝えていきたいです。そしてみなさんのようぼうの直方に博物館などをたてほしいと思いました。この陶芸教室を通して学んだ事をこれからに伝えていきとうげいがかんたんにできるようになって面白かったし楽しかったのもっといろんなもようのおさらなどを作ってみたいです。昨日は、ありがとうございました。

福地小学校　6年1組　　吉村 里響

出来事日記　パート6

題　陶芸教室があったよ　　名前　渡辺　彩心　　十一月二十四日　火曜日

昨日はコロナウイルスが流行している中、私たちのために教えに来てくださり、ありがとうございました。コロナウイルスが流行している中陶芸を行う事ができました。それは先生方や陶芸を教えてくださったみなさまのおかげです。私は陶芸をやるのは三回目でした。最初に宇留嶋先生からお話がありました。色々なお話を聞いて有名なものが近くにあるのを聞いてとてもびっくりしました。教えてくださったみなさまが陶芸をやる姿を見ていたら簡単にできるかなと思っていたけど実際にやってみたらとてもむずかしかったです。私は前、コップや、小さなおき物を作った事はあったけど、お茶わんを作った事はなくて外側をおしすぎたらうすくなるしやらなかったら、ぶ厚いままだから、どうすれば良いか全然分からなかったけど、みなさまが色々教えてくださったおかげでとてもいい作品が作れました。また今回は高取焼の歴史など色々知れたし、お茶わんが完成した後には、木の棒で絵をかいたりしてとても楽しく、光栄な時間でした。家に帰った後も、昨日あった事を家族のみんなに話しました。みんなに話すと、私もやりたかったや、「よかったね」など色々話していました。

本当に昨日は私たちのために来ていただきありがとうございました。このお茶わんを使うのがとても楽しみです。ありがとうございました。

福地小学校　6年1組　　渡辺 彩心

出来事日記　パート6

題　初めてした陶芸教室　　名前　田中悠希　　11月24日　火曜日

先日は陶芸を教えてくださりありがとうございました。最初おてほんを見たときとてもかんたんだなと思ったけど自分でやってみるととてもむずかしかったです。ぼくがやってみると横にひらいたりしてでもしっかりできたのでよかったです。ほかに高取焼の歴史の話もしてくださりそしてとても高取焼の歴史をしることができました。陶芸はやくとてもかさなを教えてくださいました。最初のだんかいでは水をふくんだねんどをかたちにしていきかたちになればもようなどつけていきそして焼くと陶芸になります。800度というあついあつい温度で焼くということなども知れてよかったです。ほかに陶芸では回転板とへらをつかうことなども知れました。回転板はそのうえにねんどをおいてくるくるまわしながらかたちをつくっていけるどうぐです。へらはでき上がったかたちのねんどに絵や文字などいれていくどうぐです。そのできあがった陶芸は3月ぐらいにある最終の授業参観でお茶会をするときにつかいます。お茶会ではでもお茶などをいれてつかってずっとつかいたいです。自分のつくったお茶わんを見るのがたのしみです。先日はありがとうございました。

福地小学校　6年1組　　田中 悠希

出来事日記　パート6

題　陶芸教室を教えていただいた方々へ　　名前　篠崎　咲楽　　11月24日　火曜日

今回は私達のために陶芸教室をしていただき、ありがとうございました。私ははじめての陶芸教室だったので、前からすごく楽しみにしておりました。歴史については、はじめてで難しかったし分からないことが多くありました。でも高取焼きのこと、福地校区のことなどいろいろ知れて、勉強になれました。また私はみなさんみたいに上手に伝えることはできませんが、将来子供を生んだ時などにしっかり伝えていきたいです。お茶わんづくりでは、説明を見ている時はすごくあっさりしていたので「意外と簡単そ～」と思っていました。でもいざやってみるとなるとすごく難しかったです。プロの方はすごいな～と思います。最初の丸くすることからすごく気持ち良くて楽しかったです。次のろくろに付けるのができなかったけど、先生方に手伝ってもらって上手にできました。底の部分をつくっている時に、高台がーぐらいになり、「できないかも」と不安になっている時もサポートをしていただきました。模様を書く時も「自分だけのお茶わん」という感じがものすごくしてすごくワクワクしました。焼き物が帰ってくるのがすごく楽しみです。また今日学習した歴史も今後しっかり伝えていきます。今回は貴重なお時間ありがとうございました。

福地小学校　6年1組　　篠崎 咲楽

感田小学校の六年生から子供焼物教室の感想文をいただきましたので、少しだけ紹介させていただきます。

高取焼作りを手伝ってくださってありがとうございました。完成した焼き物をみて、みんな大喜びしていました。今年はコロナで、高取焼が作れるか心配だったけれど、無事に作ることができてよかったです。焼き物が一部こわれたりした時に、修正などまでしていただいてありがとうございました。みんなが作ったものは、どれも形がバラバラでしたが、自分の個性を引き出せていてとてもよかったと思います。6年生最後の作品で、みんなの焼き物作りの経験を楽しくすることができたのは、高取焼を手伝ってくださった方々のおかげです。みなさんのおかげで、焼き物をみんなが完成させることができました。この作った高取焼は、今後家で大切に使わせてもらいたいと思います。この、みんなで作った高取焼は、ずっと大切にしたいと思います。改めて、高取焼作りを手伝ってくださって、本当にありがとうございました。

感田小学校　6年1組　　古賀 綾菜

高取焼作りを支援してくださった方々へ

この度は、コロナ禍のため実施できるか定かではなかった中、私達の高取焼作りの準備や仕上げをしてくださってありがとうございました。

作っていた時は、上手く出来るかなぁ…完成が楽しみだなぁ…と思いながら作っていました。実際に作ってみて、土の状態からお茶碗にすることはとても難しいことだと感じました。

そして完成した高取焼を見て、想像以上にきれいな仕上がりでびっくりしました。クラスの人の高取焼を鑑賞してみると、一皿一皿形や模様が様々でどれも個性豊かでした。高取焼を作る機会は中々ないと思うので、今回作ることができてとても良かったです。例年だと、自分達の作った高取焼を使用してお茶会を行っていましたが、今年は新型コロナウイルス感染防止のため実施することができませんでした。ですが、自分だけの高取焼を作ることができ、クラスみんなで協力して作業していったことで、十分良い思い出ができました。最後に、コロナ禍の中、私達に貴重な体験を最大限支援してくださって本当にありがとうございました。

クラス一同

感田小学校　6年1組　　中西 優月

古高取焼の方へ

感田小　立田修介

このたびは貴重な体験をさせてくださってありがとうございます。

自分でもいいのができたかなと思いました。

大切に使っていきたいと思います。

最後まで器のせわをしてくださってありがとうございます。

コロナで体育館に集って作ることができなかったけど先生といっしょに作れたのでよかったです。

みんなから「上手」とか「うまい」とかいわれたことがうれしかったです。

感田小学校　6年2組　　立田 修介

古高取焼の方へ

感田小　松尾陸来

このたびはあまりできないようなたいけいをさせてくださってありがとうございます。ぼくは、できた高取焼を見てたのほうが少し失敗してしまったけどきれいにできていたのでよかったです。これからもがんばって大切につかっていきます。コロナウイルスで体育館にあつまれなくてつくれないと思っていたけど先生といっしょにがんばってつくることができたのでうれしかったです。

感田小学校　6年2組　　松尾 陸来

次頁につづく。順不同

古高取を守る会の皆様

古高取を守る会の皆様、このたびは、ご好意で高取焼を作っていただかせてもらい誠にありがとうございます。
このような体験ができたもの古高取を守る会の皆様の、ご好意で作らせてくださったからです。
高取焼を作る時は、失敗はしたけど楽し作ることができました。
これだけ難しいのに売られている高取焼のようにどのようにしてつくられているのだろうと疑問をもつことができました。
自分の作った作品は失敗していて形がきれいじゃなかったですが、自分で作った作品なのでもらえた時はとても、うれしかったです。
他の人の個性あふれた作品をみることができました。
だけど、みんな笑って楽しくみていました。
このように、自身で高取焼を作ってみて感じたことや思ったことはたくさんありました。
もう一回作るきかいがあったら上手く作りたいです。
最後に、古高取を守る会の皆様が、ご好意で高取焼を作らせてくださったおかげで、このようにいろいろなことを知ることができました。
この体験から、もう一度作りたい、次はもっと上手く作れるようにしたいなどの気もちがわいてきました。
こんかいの古高取を守る会の皆様がさせてくださった高取焼を作るという活動ができて本当によかったです。
古高取を守る会の皆様今回は本当にありがとうございます。

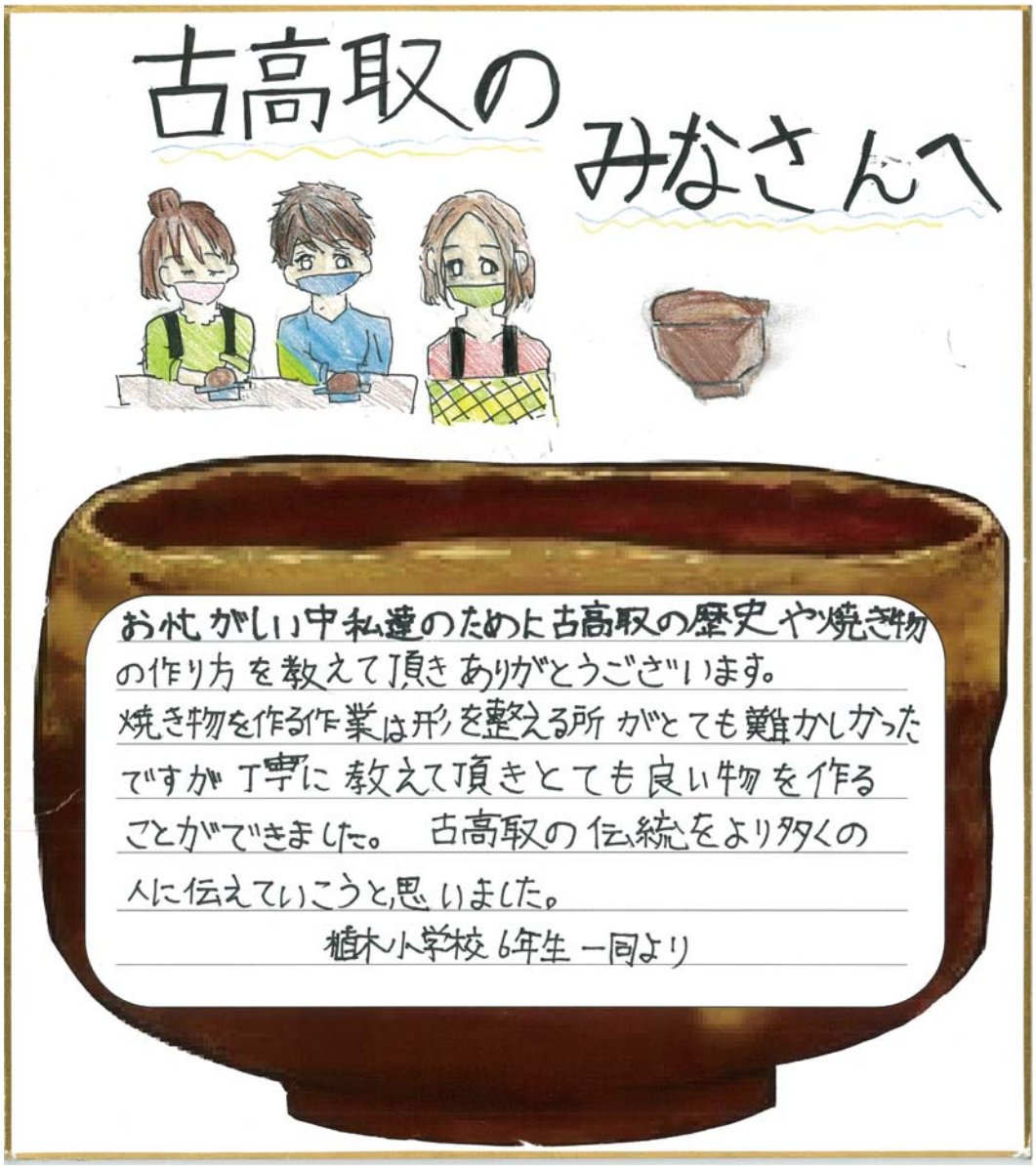
感田小学校　6年3組　　小笠原 蓮

古高取を守る会の皆様へ

高取焼を無償で作らせていただきありがとうございました。こんな体験をしたのは初めてでとてもわくわくしていました。しかし自分で実際に作ってみると、とても難しく、本物の高取焼をみると(すごい!)と感心しました。この体験を通して、焼き物に興味を持てましたしまたやりたい、そんな気持ちになりました。高取焼を作っていると楽しくてしかたがなく、自然と笑顔がでてきました。一時はコロナウイルスのえいきょうで、できないと思いましたが無事にできてよかったです。それと、高取焼をていねいに焼いてくれてありがとうございました。実際に自分でつくった高取焼にお茶を入れてのんでみました。おいしかったです。これからも高取焼を割らないように大切にしていきます。高取焼を作ってみて、難しいけど楽しかったです。とくにろくろをくずさないように周りをたこにのばしていくところがむずかしかったです。ぼくの高取焼は、たこにのばしていくうちにろくろがほとんどなくなっていました。みんなの焼き物を見ていると、とてもうまい人もいて、ビックリしました。ぼくは、焼き物の自分の手で1から作る、そんなところにおもしろさを感じました。ぼくが作った高取焼は、ねん土をこねるところが上手くいきました。今年は1回目できないことが発表されて、あきらめかけたけど、無事にこうして、焼き物教室で、高取焼をつくれてよかったです。こうしてできたのは、古高取を守る会の皆様のおかげだと思います。本当にありがとうございました。これからはせっかく作った高取焼なので、大切になにかに使用できたらいいなと思います。ぼくは、高取焼をつくれたことがとてもうれしかったです。
感田小学校　6年3組　清武 陽

感田小学校　6年3組　　清武 陽

植木小学校の六年生から、子供焼物教室のお礼の色紙をいただきましたので、紹介させていただきます。



「古高取」の魅力を発信するためのイベント情報など募集しています。　事務局までご連絡ください。

〈編集後記〉

昨年度は、新型コロナウイルスの流行で多くの活動が自粛するなか、感染防止対策を行いながら子供焼物教室や高取焼基礎研修講座を実施できたことは、とても良かったと思います。

今年度に入ってからも、まだ新たなウィルスの脅威は無くなっておりませんが、感染防止対策を行いながら、活動を継続して行けることを願っています。

皆様、健康に注意して頑張りましょう！

「古高取通信」会報・NO33

〈発行〉
古高取を伝える会

〈発行日〉
令和三年四月三十日

〈現在の会員数〉
正会員　五十四名（五十四口）
賛助会員　十八名（二十七口）
団体　一団体（一口）

〈マイ茶碗の数〉
八千五百十七　個

〈事務局〉
〒八二二-〇〇二六
福岡県直方市津田町七-十四
TEL　〇九四九（二三）一三二一